

702レタリア通信 No.2

内外情勢と我々に乍ら何往不勝

（一）序

三人マルクスが一切のブルジョアイデオロギーの虚飾を暴露して、資本制生産の普遍的発展によってのみだされたプロレタリアートの世界史的存在とその自己止禦に、そし階級社会のもつ全ての矛盾の根絶の鍵を見出していくから、又二月の革命は最も革命的な展開力を示すから、その成果物の一切を自己の掌中へうがらじ、アジーに奪い去られたパリのプロレタリアートがまだ十分に組織も準備も、綱領も持たないままにブルジョアイジーに対する闘争を開始する。それで、その成をほさんでの敗北から丁度二十年の年月が三週した。その間、オ一次世界帝国主義の過程から、ロシヤにおけるブルジョア权力が瓦解し、レーニンに導かれたボリシニツキイキ大反対が爆発するに及んで、全世界的規模において階級斗争の最高的担当たるブルジョアイジーを打倒して、高度に發達した生産力と宇宙の資源とそれをコレタリーアートが手中に算して、それが社會の大歴史のページが切り拓かれた。その後この十月の革命に始まって二三年のトロントカリアートの敗北に至る迄全ヨーロッパを覆いつくした革命の一時期、二九年の大恐慌とその次につづいたブルジョアイジーの動搖の一時期、二度目の帝國主義による世界の危機的様相を露呈するいくつかの過程を

構造的变化」にもとづく「社会主義への平和的移行」という幻想さえ現実的に可能であるかのように考えられて來た。しかし、昨年から始まりつゝあるシリア・インドネシア・ヨルダン・レバノン・イラク等におけるいわゆる「平民的」手段によるところの革命的民主主義の斗争の發展、著しくプロレタリア、農民的性格を帯びて進展していくアルジェリアでの革命戦争が生を出しにフランスブルジョアイジーの支配の危機等はブルジョアイジーの「平和的な」構造上の弊を打消するに十分であった。資本主義の發展が最もおくれ、それ故にこそその矛盾の畢竟然どよりも速く希望へ近づくを得ないアラブにおける激突の開始は何を意味するだろか。ブルジョア的身体の末端ではその心臓部より速く激發するところ、「マルクス」おそらくは資本主義史上最大の規模をもつであろう恐慌に向っての世界史の不可逆的な進行と共に、このような末端部における激突の始まりは、ブルジョアイ社会の心臓部であるアメリカにおける、ヨーロッパにおけるそれには迄發展するであろう。世界史で何層目かの決戦の日が刻一刻と迫りつつあることをいまこそすべての共産主義者はほゞりと自覚せねばならぬ。ヨーロッパに我ではない。資本主義の死の苦痛の中で、それをヨーロッパ世界革命に転換させる事が出来るか、それともブルジョアイジーにこの恐慌を一層強化して抜け出すことの可能にする美林を算えるかがやは、プロレタリアートとその指導部の手中に握られてい。

巨人マルクスが一切のブルジョアイドオロギーの虚飾を暴露して、資本制生産の普遍的発展によつてうみだされたプロレタリアートの世界史的存在とその自己止撃に、そ、階級社会のもつ全ての矛盾の根絶の鍵を見出してから、又二月の革命は最も革命的な展開力を与えたから、その成果物の一切を自己の掌中からブルジアジーに奪つ去られたハリのプロレタリアートがまだ十分に組織も準備も、綱領も確たないまゝながらブルジョアジーに対するはじめてバリケードをはさんでの戦を挑んでから丁度百十年の年月が過ぎた。その間、第一次世界帝国主義の過程から、ロシアにおけるブルジョアズ力が瓦解し、レーニンは尊かれめたボリシニツキヤが反対力を發揮するに及んで、全世界的規模において階級斗争の最高の担当たるブルジョアジーを打倒して、高度に發達した生产力と宇宙の資源とをプロレタリアートが自己的子中に奪い返すべきは大きな世界史のページが切り抜かれた。その後この十月の革命に始まって二三年のドイツ・プロレタリアートの敗北に至る迄ヨーロッパを覆いつくした革命の一時期、一九年の大恐慌とその次いでさづけだブルジョアジーの動搖の一時期、二度目の帝国主義へ戦争と現代帝国主義の危機的様相を露呈するいくつかの過程を経ながら進んで来た。にもかかわらず、第二次帝国主義と戦争の過程から生み出された何度もかの決戦の一時期を、中国プロレタリアートによって加えられた打撲を最後に切り抜けた帝国主義へアントル・ムルジヨーが先に生産の拡大に狂奔していたブルジョア的平和氣

⑪ 普通 · 現代 · 一 · 教育

支値杆とつゝ、お見したど二のアシスト網——社会的出口

現実にフランス人に見られるようだ事態がアメリカ、イギリスでは黒人、白人の衝突、日本での右翼の躍動等に萌芽的に現象して始めている。一番最初にやどわれた状況には多くの低賃金で白人労働者の過度の要求を抑制し、不況には一番最初に首を切らざる黒人労働者と社会的危機の成熟に伴つて狂暴な暴力として登場して来たエリジアニアとの衝突の開始は、それらの因における階級斗争の鋭敏化を予言している。こうして危機の解決は只プロレタリアートの決然たる行動によつてのみ可能である。だが一方ではアメリカでは四五〇万、イギリスでは五〇〇万、日本では八十万という大量の労働者が自らの手と力を差さげた本場から西進していくにも拘らず、これらの中における階級の争いは極端などころ・大いほど鋭い形をとつて爆発していく。アメリカにおける自動車産業を中心としたストライキは新規労働契約の締結と共に燃焼し、イギリス、日本、などにおいては、下部労働大衆が粘り強い斗争を繼續していくにも拘らず、労働の切下げに来るべき恐慌の出口を見出そうとするアルジアフジーの圧力と改良主義による斗争の抑制によつて、これがは有利に燃えさせられていく。しかし全体的には資本主義清算の次第の中依然として發展を續けているトイリーにおいて、かど居を立てるアーロレタリアートの要求がアルジアフジーに対する一派の譲歩を強要しようとしているのが例外的現象である。このようにしてフランス・アーロレタリアートがもつとも重な瞬間を経過したあと、アメリカ・ヨーロッパ・日本等のアルジアフジーは依然としてアーロの相対的地位の優位性を保持していかざうに見える。

こうしたアルジアフジーは、外觀的安定性は、恐慌の進展がいかむかみある今日においても、彼らの支配的物質的基盤たる資本主義生産の動向にもうかがえるかのように見える。

にか五六六年後半からの指標が示すように、すでに過去数年間に急速な資本蓄積の進行は、一定の利潤率をもつてそれが他の相手手段として供給せしるには過多な資本をもみだしている。國家信用による一定の矛盾の爆発の運びも、一方の過剰生産及び過剰技術の被耗となつてゐるにすぎない。「ヨーロッパの株式市場での株価は五四〇ドルにして安らかに高騰を示してゐる。」<sup>1</sup> こうして一切の争競は過剰生産、過剰技術を一般化させ、商品の實現不可能、信用の崩壊、再生産過程の一層の停滞と混亂を用意してゐる。おそらくどのような崩壊は世界中の上でも最も巨大な規模として発展するであろう見通しを我々は確實にもつておきたい。そして万事が好況に運ぶ間での資本家階級の実践的反対にかりて、もやは「利潤」の分配、「損失」の分配が問題になるが、力と狡智との生死を賭けた斗争が始まる。おそらくは平和の基礎を固めるという幻想にからつて、現実は敵対し合う國際アルジョアジー間の市場をめぐる熾烈な死斗として展開されるであらう。だが、このように敵対し合つ兄弟向の斗争にもまして、アルジョアジーの心胆を寒からしめて云ふのは、恐慌の一切の犠牲の要因か。プロレタリアートの上に加重されるにしたがつて、不可避的に増大する労働者階級の左翼化と战斗力の増大である。アルジョアジーの懷柔と鎮圧、改良主義者の斗争の抑制、前線の遠巡にもかかわらず、アメリカ、イギリス、日本、ドイツのプロレタリアートもブルジョアジーに対する決然たる行動を迫りながらを得ないであらう。それ故にこそ「アルジョアジー」はあらゆる手段を動員して、自己の支配の維持を云ふところの努力を継続してゐる。プロレタリアートが一切の苦難の根源である資本の鐵の意味をたりモるのに、一の恐慌によって生ずる混乱を利用する沃養をためたものか、合理化、切り、市場争奪戦の道をアルジョアジーに許すことによって微等に再生の道を許すのがの岐路に我々がたへなれどいの事と今こそ明確に自覚すべき時である。

アラビア書の本流

フランスにおける危機の一施の公報によつて、恐慌前後の不思  
味な一時的な静けさが資本主義世界をもつていて、イニク  
ユリタン・レーリーにおける革命後援を目的としたアメリカ、イ  
ギリス帝國主義の侵略も一定の安定を中東にもたらす事に成  
功したかのようにみえる。

一方ヨーロッパ、農民を反帝國主義の斗争に動員しながらそ  
こから生ずる一切の利益を自己の掌中に奪いとする事によつて、自  
己の資本主義的發展の道をはかるとするカラミ派と、自らも上  
方小アル大農運動の基盤を見出しつゝ、アメリカアルジヨアジー  
の底辺の下に資本主義的進化の道を歩めよとするフランツ党  
との二派に、トロツキスト、レーニン主義の三分の二の派は、その  
争力が次第に平民的権利を帯びるに及んでいかにも簡単に掌握  
におわってしまった。一方では国際的なアルジヨアジーとフロ  
ンティアートの勢力が、一時的均衡以上に勢力から、他方では、土  
地改革によって二地を得た小アル小農を中心とした一定の大衆的动  
員と社会主義的援助を利用して帝國主義から農業の躍進を強  
制しつゝ、アルジヨアジーの獲取する权利を大に拡大しようと  
するオルジヨアジー政権リナセリズムはその下での資本關係の形成  
拡大と共に次第にそのアルジヨアジー的本質を明らかにして来た。  
こうして昨年末、アメリカ帝國主義者の侵略を前にして、プロ  
レタリアートを中心とした反帝國主義的階級闘争に躍進した時に  
エジプトとの合併といふ手段をもねることによつてそのアルジ  
ヨアジー政権の運営をはからうとしたエジプト・シリヤの支配力が  
政治的性質は最早誰の目にもあきらめに付いている。しかし、イ  
ラクがシリヤの商品に対する自由な市場を開拓することを自説ん  
で、アラブの陣営が反フクダ革命を繼續した」というシリヤアルジヨ  
アジーは「アラブの陣営を行進する」心はず、世界恐慌の波濤は彼地に  
もさざわせさせつゝある。

このような活動がさなかにあち中近東において、丁度一九〇〇年の前半にあいて自由なパルジョア的發展の道を擇き満るための革命の烽火が高々と燃えあが、たその同じ七月十四日に逆行せられたイラク革命がその後の展開は一矢我等にてて象徴的である。イラク王制は封建的な土地所有關係の保存と、石油資源とかかえてのアメリカ、イギリス、ペルシヤンの支持によつて産業アルとプロレタリアートの形成を最大限に抑制しつゝこの國際的な階級斗争の渦中の中で自己の生命を求める基盤をもとめてきた。にもかかわらず、イラクの盟主であったヘルコバ十九日には封連革命が廢止され地の權益を要求した種族の長が種族が共に地を自己の私有財産として登記しなだれ大な土地を横領した事によつて生じた土地をめぐる紛糾へ因連報告によれば所持権の確立した土地は一九五三年迄に六八、四〇にすれどと農業の土地をもととする斗争とは常にアラブで最も陸國であると思われていたイラク王制の土台をゆがべてしめたる爲に後援は石油收入の七〇%を投入した南懸計畫によつてティカリス＝エーフラテイス西河を開発し耕地を七五%拡張して膨大な分割地農民で上から舗設すると、地道によつて自己の支配の維持をはからうとした。このよつた地主至愛と巨大土地所有者を保存しながら進む上からのペルシヤ化の道に対応して一切の巨大土地所有を廢止し農民の手に完全につづ下から革命的行進が發展する。そのよくな下からの道こそが七月十四日の革命の展開力を与えたのである。にもかかわらず内政は極力を握りと一切の手段を禁じして人民の手の早い動搖を抑ふ。国际帝国主義者とも聯引を開始し民兵を常備軍におそか革命の民衆的展開力をしつよくにおさえつけながらスケーリングで改良的な土地改革をもちだして来ている。プロレタリアートは民主主義革命が一定の歴史的進歩性を意味するが故にそれを支持しながらも、自らにとては、一時的空過的な任務にすぎない事をよく知つて、いう。プロレタリアートの目的は階級構築の変遷等ではなくその止揚でありそのためにはペルシヤ革命が勝利に終る。

不信の眼を敵に對してではなく今迄の同調者に向をかえアル・ジヨア  
革命の激動を自己の解放に至る困難が何よりはなうことは、マル  
クスが四八年の革命の中から教訓として導き出したイリの共産主義  
者にぶつけたところの革命的技術に他ならぬ。だとするならば  
「帝」主権者即外部からの侵略を計劃する一方、手先を送りこんで  
□内の不和を煽り、國族政府を困らせようとしている。... 本多は  
人民に警戒せしめ、「か決定的な時期を通りすぎままでストレキ  
をしないように要請する」のよくな民族解放という沒階級的な論理  
から出発したところの政治奉行方針が何よりの革命的意図をもちえない  
ことはあきらかだ。また「中近東の情勢を正常にする」との名目の  
もとに、中近東の激動を単に平和か戦争かとの観察からしか捉えず  
一時的な「安定」から当然みちびきだされるところの革命の衰退を  
現状維持的な「平和共存」の爲の外交の取引の爲に使うとしたら  
明かに正しくない。さてイラクに表現されたような下からのアルジ  
ヨアの改革の道、同時に砂漠の監獄のトンカツのもとに辛じて維持  
されていけるコルタン王制をもばざ死の深淵に叩きこむにちがいない。  
中近東における一時的安定の現象も、世界資本主義の矛盾の発展  
、アラブにあける階級的矛盾の成熟によつて、それがほんの一時的  
な性格のものでしかないことを明かにする所であつう。アラブ世界に  
進行りでいる革命的民主主義的性格の反帝立場は、國際革命の形界  
社会主義革命への合体の新たな一時期の開始をつけている。この革  
命的民主主義的斗争をプロレタリアートの指導下にみちびきよせ不  
ルジヨア社会の心臓部に送れを波及させる爲にいたかわなければ  
ならない。生産力のアルジヨア的生産關係と□境の陸害に対する反  
逆をそのような方法で解放することによつて、始めてこれらの方に  
おける一切の矛盾の暴横と歴史的性を掃討することがでモるであ  
らう。

世界恐慌と殖民地革命の進展に気もどらうとするばかりであせりながら、日露アルジヨア革命シテは「階級」としては不可避の損失の分配を各自ができるだけ自分の割合をへらして他人に背負ひこませることによつてぐりぬけようとする「力と狡智」の世界が戦いを始めている。オニ次帝口主義戦争後、資本主義的発展のおくれた東ドイツを自己の身体から切りそて、東ドイツからの難民流入による膨大な難民問題の存在に坐してあとづく日本の資本構成をなしといた西ドイツ帝口主君と、農業における自由な資本主義的進化の道を掃そぎよめ、近代的なスルシヨア支配体制を確立しつゝ、より高度な資本構成による富積を遂行することによつて復活してきた日本帝口主義の登場<sup>△</sup>こそは、市場争奪戦の一矢の激化をつげてゐる。そしてその過程の中から形成しつゝある西ドイツアルジヨアジーの覇权のもとで<sup>△</sup>西ドイツ、フランス、イタリアアルジヨアジーとの融合の発展<sup>△</sup>アメリカアルジヨアジーとそれに従属するイギリススルジヨアジーの帝口主義的同明の強化<sup>△</sup>日本帝口主君の自立的傾向<sup>△</sup>は、あらたな帝口主義的再編成が進行してゐることを告げてゐる。もし我々があらたな衰退の入口にたつてゐる帝口主義に決定的な強力な打撃を加へて、帝口主君の倒壊とプロレタリアート独裁の実現のために速度に斗いを詫詬することをみのがすならば、このような帝口主義的対立の激化を不可避免にし、あらたな帝口主君、戦争への道を切拓くであろうことは疑ひない。そして彼らは、戦争準備政策による諸矛盾の爆発の一時的なひきのばしによつてではなく、直接的な帝口主君、戦争手段による期待をよせ、「台湾にみらゆるような帝口主義的戦略をめざしていける政治情勢の進展、和平共存の複数国家構成<sup>△</sup>をめざす「日露紛争が日露的民族統一の渦の中にからは分離して經濟に「内政問題」としておこなわれるという幻想の醸成<sup>△</sup>をましまずはつさりと示している。

アーチをもつとも狂暴な侵略者として再び登場させる二とを許すが、それとも指導部の後退に終止符をうち、敵の攻撃を粉碎して革命の突破口をひらく光榮ある任務を遂行するかの力とは、唯（世界）プロレタリアートの手中に握られている。日本におけるプロレタリア独裁の樹立は、アルシヨンゾートの世界支配の不可欠の一角に致命的な打撃を与えることであらうであらう。資本主義にはおける最高の革命的手段は、ソビエト連邦の「和平的共存」と「社会主義」の二重統一である。ソビエト連邦は、内に崩壊せしもの如く崩壊され、全世界恐慌の中で西歐ヨーロッパの内に崩壊、世界を掌握させ、彼らを自らの权力にみちびき、その上にレタリヤ士官軍を率いる社大な一ページを切り拓くにちがいなし。

# 日本帝國主義の復活

88

④ オークスルジヨアジーの手厚い援助を、労働階級の指導部の進歩を裏切り、助けられており、五六〇五年においては「神武天皇」の御の由で、「驚くべき速度で復活化した」と日本資本主義は今や、世界的不況の進行の由で動搖し暴乱の沿出に「甚しき」までなつてしまっている。

不況は、強力な日本資本の財政金融政策によつて緩慢に進行する「なべ底景氣」の根柢をとりつとも、そのまま不況を累積しながらさらに深刻な過剰生産恐慌へ向つて来る。

生産、引継き低下し生産過剰では、在庫調整と生産制限が進みられ、標準体制がどうねつくるにもかかわらず、その効果をほとんども現れてしない。この不況の深化は必然的に個別資本間の競争と対立を深化させ、競争と併行して合規化のための内閣が続けられ、予算の拡大に拍車をかけている。

そして、その過程は、日本資本主義がその内部の一層暴力的な整理という過程を経てはじめて新らしい資本蓄積たのをむける事と示していく。

この過程の前段階の時期に、すべての労働階級をエジキとす「エジキ」によつて進行してくる。完全労働者は公私兼用にしてこそ多くの人々をもて、雇用工にはじまつた自切りは、今や本工にあらずひじめ、毎月一、二、三、四の労働する労働者も今は労働者が生産過剰が原因で過剰化される。雇用、合理化、セイシ等の労働者に対しては、非能率工場の廃止と東洋生産、金切下げと機械、そして自切りと、急速な改善が加えられ、血みどろの斗争による労働者をあらうとしている。日本の労働との対立は不況の深化の中でもますます激化し刻々とその矛盾を累積して進行してあり、その爆発は不可避である。そしてこの爆発の時にあつて労働者階級が資本に対する階級的所征戦に立ちあがることと可能にするが、どうとも意を用意して資本の攻撃の前に倒れ行いくのが、やはりアーレタリヤーの指導部の草中に揺らしてい

③ ① 一のようなら日本植民地の帝国主義的諸政策、その海外進出の方向は必然的に一方にあって、列国植民地・英米アーレタリヤーとその矛盾を深め、他方にあつては国内の階級討立を激化させる。

資本主義市場の然成化によつて極度に激化している國際スルジヨアジーの競争は、輸出の如くなんヒンク政策を用いて市場準拠地に介入するこれがさすが資本主導の保護する力と日本スルジヨアジーに要求し、同時に国内の完全な「完全と秩序」「階級和平」を求めている。

かくして日本スルジヨアジーは、不況の進行の過程で、今やそのあくまで欲望をせたす「ノーマン」により、帝國主義者としての本能を、經濟的にも政治的にも、露骨に示し始めている。

カルテル組成の完全さまで「自由と保障」、資本への集中と、トラスト化による目的によつて競られた独裁法の改正、国内市場の一本化と、シンジケートによる国内体制がたために目的とした新生入取引法改正はこの帝國主義的復活を完成させんとする標準化政策の、象徴的現れであり、日本独立の側からの安堵条件改訂要求に基づく、双方争奪への改訂は、効率化・強化のスクリーンなどといふオードケた代物ではなく、まさに、やがてアーレタリヤーとも敵対するであろう日本帝國主義の最も明白なメルクマールである。

④ そして日本スルジヨアジーの帝國主義的復活を保障する武力の建設と強化は、その主要な関心と存つてゐる事は、余りにも明かである。自衛隊の核武装、荷蘭荷蘭の一方差積貿易の急となつておらず、すでに国内ミサイル生産の開始は、乃ほしい労働者の拒否斗争をひき起すこゝしその。

⑤ ヨーロッパ開拓と帝國軍隊の建設の努力と併行して日本スルジヨアジーは、日本国内の「階級和平」実現のための諸政策を「文教政策」として急いで力を雇用してくる。

階級政策全般に限り「またせられ、「秩序と安全」の維持の從順な被力者があつて国民としてよりあつたための教育政策の全面的政策、

⑥ ① この辺から本題を前にして日本独立スルジヨアジーの内閣は、彼らは激化する労働階級の衝突を徹底的に暴力的に鎮壓しつつ、会議化を実行し、資本の専門強化と実現し、不況を引きぬく最も強力な資本主義として、世界市場準拠に乗り出すべくとしてあるなどの政策を運行しつつある。

彼らはまず不況の進行を單に「切り並げる」のではなく、この過程を自らのへがモニーの下に徹底的に利用して、日本の中をよくしていける。彼らはまず不況の進行を單に「切り並げる」のではなく、この過程を自らのへがモニーの下に徹底的に利用して、日本の中をよくしていける。

二つ二つも、若干の産業部門での設備投資の維持があり、これらは、彼らのへがモニーの下に徹底的に利用して、日本の中をよくしていける。彼らのへがモニーの下に徹底的に利用して、日本の中をよくしていける。

これらを支えているものは、日本の政府の由で資本で供給された莫大な資本による日本独自の力量であるが、電印とクローバーの併合、ハ幡錦等の三大鉄道によるカルデル決定、國家的資本の指導によつて行われたセメントのカルデル等としてカルデル政策は一内の成功をかせ、日本は、この他の諸政策にもかかわらず、その「正常」さと維持できなくなり、壁につき当つてはいる。三度にわざへ金儲権和田金儲権を支え、しかも、不況の進行を阻止する」とはできないが、設備投資も通じて直面している。

そのため輸出の増大、海外市場への進出が多くの死活的要件となつて、輸出は内閣力、支那のくりのべ、財團等の形態とて、日本輸出が主要な位置を占めるに至つてはいる。

かくて、日本独立資本の經濟政策は明らかに全く帝國主義的なものとして施行されつづれり、日本獨立主義の完全な復活は疑う余地のない現実となつた。

② 不況の進行が必然的に資本と労働の対立を深め、不況の一切の資源を労働階級に負わせて、自らの帝國主義的復活を可能にしようとするスルジヨアジーの政策に対する三労働者階級の斗争は日に日に激化している。

これがスルジヨアジー最後り、そして最大の要求となつた。彼らはその支配を取締の隅まで及ぼし、労働者が階級意識にめぐめの回結して斗争に立ち上るの区阻止するための支配体制区かつてないほどの精巧さと嚴しさをもつて作りあつよろとしている。「労働者階級の階級的斗争の鎮圧、労働者階級に対する完全な支配権力確立」というスルジヨアジーの政策が、一定の成功を収めた事を示してくる。

更に、彼らは教育の全般化の政策を追求し、労働運動全体を階級化の第にひきとりこもうとしている。今年の夏から秋にかけての、統計、日教組、国教ははじめとする各大学の大会に見られた標準化の方針は、困難に会際して動搖し、又公然と裏切った幹部達をたくせにうなぎた彼らのこの政策が、一定の成功を収めた事を示してくる。

こうして労働運動全体を階級化の場でひきとりこむ政策を追求して、彼らが設定した二つの姿勢のリードして、断片として斗争に對しては、「この斗争が全戦線に拡大する事をあらゆる手段をもつて阻止し、夫々の斗争を金網の内にあしらひ、完全に封鎖した上で、ハサウエの学校もしく音楽堂に、必要に応じては公然たる警察機関の介入の下に鎮壓する。そしてこの労働政策が、日至連、至國連等の手によつてあらざる一指導力もとで運行され、その鎮壓が過激化する事と對しては、この

要素に従つてひき取り、監督本の監督に従つて運行されてゐる。

苦手故に於ける斗いと、それに対する壓迫は、心を最もあざかに不するものであつた。

に対する权限を合理化し、法制化し、一層進める目的をもつて  
勞働三法の改定、公務員法の改定、任官審査制度の採用等々が  
目論まれてゐる。警察官賃料規定期間の「改正」はそのあまりに  
も公然たらか一歩でしかない。

「官僚結構と軍隊、警察等の暴力装置の拡大整備はかく  
本フルジョニアジーの一つの主要な努力の傾注点となつてゐるの  
だ。

日本帝國主義を「さすがに」でも過少評価する事は許されない。日本ルドルフ・アジーの政策は勿論の進行の中で、日本從属層には上りで商業力正常化を發展させ、下りで威儀と内訌分裂をもたらし狂暴化した政策ではなく、階級斗争を自らのへべモニーで展開し、不況の中で独立の一戸の集中と細分化を実現し、帝國主義にして完全に自立し、大蔵を切り替えて来たるべき新天皇階級に当つても異常事態に米、西独に至してのり出でようとする日本帝國主義の政策なのだ。

日本アーティストの状況とその前途予測

社会主義を極度に毀滅して、常に「民主タキ的任務」と权力の争取の展望から分離して、段階的に進歩する修正主義の成立の傾向を失はざる。

つさられて未だにいかかわらず、日本労働者階級との決めども  
ついでに工不レギーを運営させようとしている。  
ケルジョアンの必死の、そして警くべき巧妙さをもつて、兵  
場の戻々に力で行き直つた軍の管理、馬鹿支配の類の口にもみか  
ねらず、新潟斗争、全羅中野の斗争、そして慶野斗争に於ける相  
次ぐ指導部の裏切りにもかかわらず、労働者が次々と加里され  
来る資本の攻撃に対して非妥協的に斗して立上つてゐる。斗め  
ぬ身に「は加之らば彈圧せよ」と田舎のストラッヂが全羅中  
野の斗争を行ひ、頭から根にかれて、金強化・首切りに付する  
斗争に、合化・セメント・新潟・千葉の労働者が次々と突入してし  
つた。日本化學、山西六の三・そして善子坂口吉田野と原山に  
て王玉製粉の斗争と、渋本の竹下らしい政黨と彈圧の集中砲火をあ  
びながら、労働者としての生きと死を守るために、血みどろに斗  
つてゐる。この斗争の力は、勤耕斗争に於いても大きく發揮させ  
られ、發展した。

しかし、喜劇の出現は、聖詔法以来の下部のたゞひとりを生む出でてゐる。

11) 革命的部品を生み出さなければおかないと、  
福利は、このよろんな革命的勢力者が全体の階級斗争の運営を与  
え、明確な暴力取扱いの方向を明らかにして、分断されてしまう個々  
の斗争を企業の枠から、産業別統一斗争に發展させ、ついで全産  
業別統一の全国斗争へと發展させる。即ち個々の階級斗争を  
全階級的斗争に展開させる事はじめて可能となるつ。  
だが、斗争の激化にもかかららず、大勢の者の直接抗戦が危険  
に成長し、エネルギーが増大しているにもかかわらず、依然として  
、斗争の企業の枠を出る事が出来ず、個々バラバランに分断さ  
て集中砲火の下でがたがたに死かされてしまふ。

(2) くる。  
五七年前の新潟斗争に本ける裏切りに歸と希し、次に又別半東京の斗りを抑止し、諒林体制の確立を目的に講じ、動静斗争に於しても一貫して指導をすれども、終に諒林主義の根柢が固く、今も「力へて交渉する」のスローガンはめぐで生存をみたる斗争を追うべきである。而して「中正回復、エ」の北海、島崎製造の「貿易政策」斗争のカンパニアにそりかえり、してゐる。諒林の庄作的攻撃の前に、斗りの指導の確信を失つて即和泉主義者や公然たる裏切りものたちをとつて、首切りに反対し、实际上を要求するまで、斗争が如何なる意味を持つのか、これが毎日にして、材料と事件と結び、全階級的斗争に昇進へせるか、五七、八両月の斗争に何故に忍耐する彈圧にも屈せず斗いつづけてしまひの如き、一部大變の工エルギーが何故かくもかきさうでいるかと、全く理解出来ぬのが、若えようともしないのである。

(3) たるが如くの内閣閣僚小山川トマーやは東洋銀行に就いて、その内閣の運営や、小山川自身の内閣に就いての意見を知らねばならぬ。即ち内閣の運営に就いての意見を知らねばならぬ。

然しこれ本に就いては、それが出来た事と併せて、内閣の運営に就いての意見を知らねばならぬ。即ち内閣の運営に就いての意見を知らねばならぬ。

内閣の運営に就いての意見を知らねばならぬ。即ち内閣の運営に就いての意見を知らねばならぬ。

内閣の運営に就いての意見を知らねばならぬ。即ち内閣の運営に就いての意見を知らねばならぬ。

内閣の運営に就いての意見を知らねばならぬ。即ち内閣の運営に就いての意見を知らねばならぬ。

内閣の運営に就いての意見を知らねばならぬ。即ち内閣の運営に就いての意見を知らねばならぬ。

内閣の運営に就いての意見を知らねばならぬ。即ち内閣の運営に就いての意見を知らねばならぬ。

## 第2回 案況と政策の問題と課題

一週間にあつたアカハタのブレスキャンペーンの中でも、東京都

党会議は十日五日終った。七回大会以前、新たな段階に入、た党

内斗争の語調相手に、会議の状況に端的に示された。それは

典型的な官僚主義者松島和重の口火に続いて、春日、高

木と中央の全力を上げた「修正主義」抑圧の方針に、多様の余

地を求めるながらも、余りに官僚的な方針に、抑圧を重ね

が行なわれ、そして何よりも官僚的黒氣力、レーテルの連合を

示した党内外一般大衆の状況に、「アカハタ」で記述されるが如

く、中央官僚主義者の方針は、七回大会のつまりと、都主導的の  
精神による懸念感の上に、一方生梗な改良主義と官僚主義の向

に進んでくる。

たがいに昨年二月には片手に党内外争う中で、併に上手に  
したがいに内閣を、党内でもつとも官僚主義と絶対に部分的に反  
対した。しかし、内閣、中田から一部活動家と同様にその政治的  
政策は、本年の全国活動者会議において改進主義的とはして  
強力な反中央の圧力となつた。

しかし、「大」事件は最大限に利用した。中央官僚主義者は、  
七回大会ばかりに反対し、そして新たに「修正主義」と「自由主義」  
の斗争として、安東らの内部抗議活動によつて、  
そして恩を吹きかねして未だ六月末前、中央活動家たちが「自由  
力」にて、党内で最大の反中央的勢力「都主導的革新派」は粉  
砕されたりである。因西、中田の民主主義者も、そして大正銀行  
の影響力に見えた反中央的運動、「」中田には、大正銀行を起す要因をもたらした。

七回大会を軸として、一齊に反對した中田の官僚主義者たる  
者たるは、大会前より支えられた中田の官僚主義者の手を放つたが  
、

(4) 在野派本邦の元の問題の中、他の内閣の運営や官僚主義の問題の中、内閣の運営に就いての意見を知らねばならぬ。即ち内閣の運営に就いての意見を知らねばならぬ。

内閣の運営に就いての意見を知らねばならぬ。即ち内閣の運営に就いての意見を知らねばならぬ。

争を回避する傾向は、日本労働者階級の斗争に重大な損害を及ぼす

とするから、

「一九四九年五月十日開城の上りて、日本労働者階級の斗争に重大な損害を及ぼす

原因は民主主義の助太刀といへども、

韓國政府の助太刀といへども、

韓國政府の助太刀といへども、